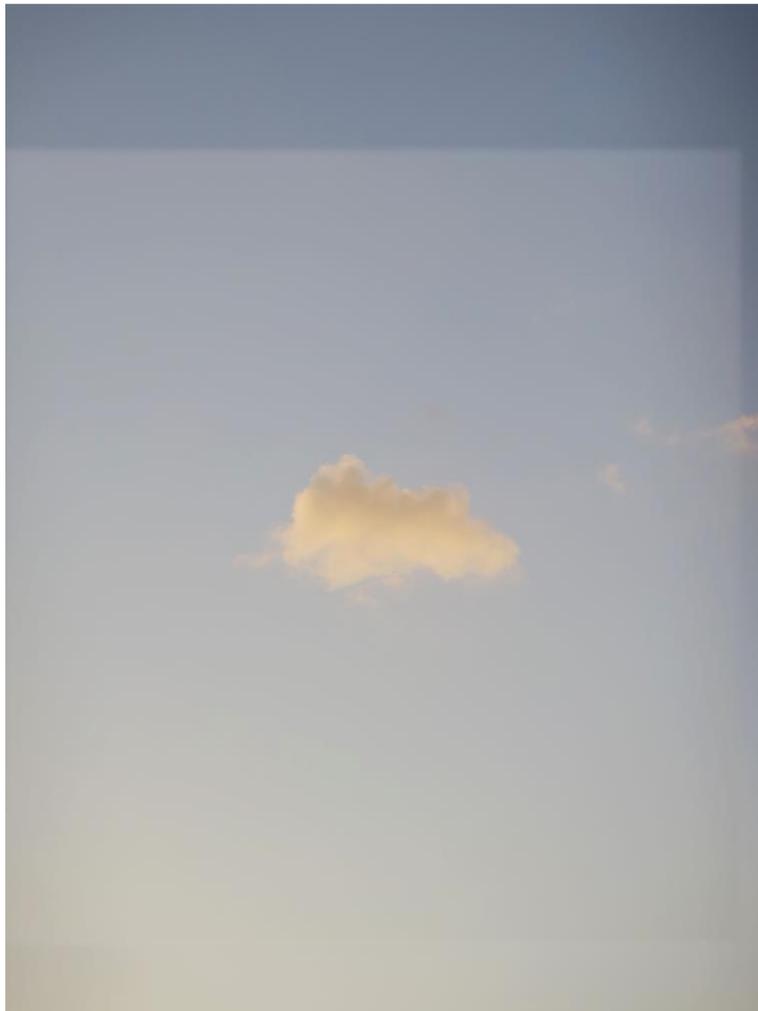


リー・キット 「息をのむような虚ろな視線」

2023年11月18日(土) - 12月23日(土)



リー・キット 《A blank stare》2023, inkjet print on watercolor paper, 66.7x50cm, ed.20

その風景は呼吸ができなかった。

Bは独り言を言っていた。彼はそれを警戒し、止めようとしていた。

しかし彼に話しかけているのは彼自身なのだ。

Bは目の前の美しい風景を表す言葉を探していた。彼はその景色が息絶えそうになっていると感じていた。

彼はゆっくりと息を吐き、次第に弱まる氣息を捉えようと再び息を吸い込むのをじっと耐えていた。

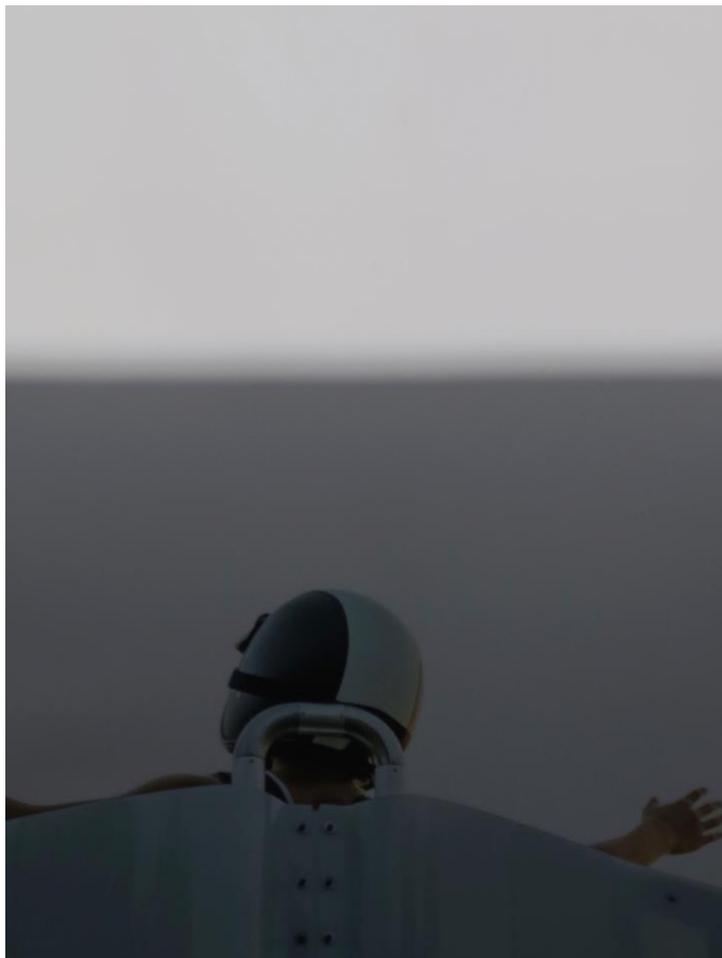
彼はある程度心地よく静かな生活の中で、落ち着きを見出すことは難しいと感じている。
彼は人生には何層もの重なりがあるかのように、実際それはそうなのだが、一つ一つ剥がしていくことが好きで、
そして未だに平和な孤独に到達できない。結局今も、何かに対して激しい怒りが存在しそれが平静を阻むのだっ
た。

時に傷つきやすい人はよき聞き手となる。風景に耳を傾けている時、Bは動かなかった。ただぼんやりと座っていた。
Bはかつてある人に、勇気を持ち、決して何も恐れるべきではないと告げられたことを思い出していた。そう
言った本人こそ、自分が何かを恐れていることを知り、受け入れることを恐れいていた。

凝視することは息をし続けるためのよい手段だ。起こりうるあらゆることの前に、まずはひどい出来事について
考え続ける。

過去と現在の、そっと突然息をのむような、その音に耳をそばだてる。

リー・キット 2023年10月

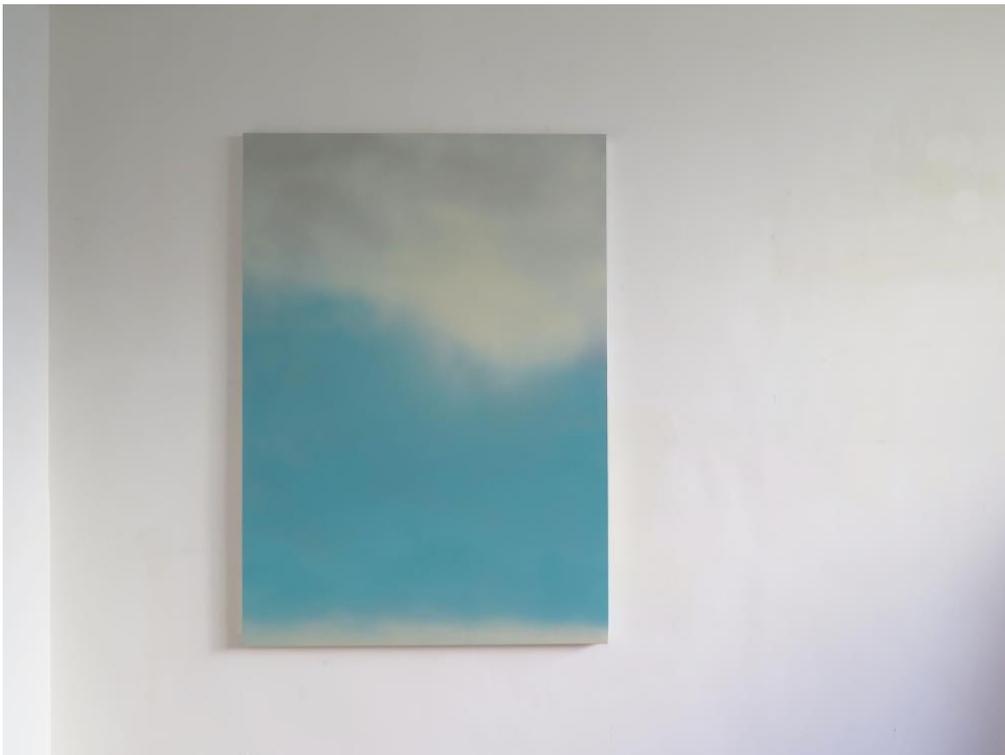


リー・キット 《Advertisement》 2023, inkjet print on watercolor paper, 66.7x50cm, ed.20

シュウゴアーツは3年ぶりとなるリー・キットの個展を開催する。リー・キットは絵画を日常的なオブジェや画像、映像、サウンドのプロジェクトとともに三次元の空間において展開してきた。今回は本人が東京へ滞在し、ギャラリーでインスタレーションを完成させる。

リー・キットの活動について述べる時、その政治的な背景について触れざるを得ない。キットは1978年に香港で生まれた。香港では2014年の雨傘運動を皮切りに高度な自治権を求めて抗議デモが本格化した。2019年には民主化運動として規模が拡大、推定参加者は80万人を超えたとされている。これに対し香港国家安全維持法が可決され、1万人以上の逮捕者、数多くの死傷者が出たことは記憶に新しい。また2022年の時点で20万人以上が国外へ流出したとされる。

徐々に抑圧される香港の政治状況を背景に、リー・キットは軽やかでユーモラスなジェスチャーで示唆に富んだ数多くの展覧会を実現してきた。しかし2019年以降の民主化運動はそんなキットをも丸ごと飲み込んだ。



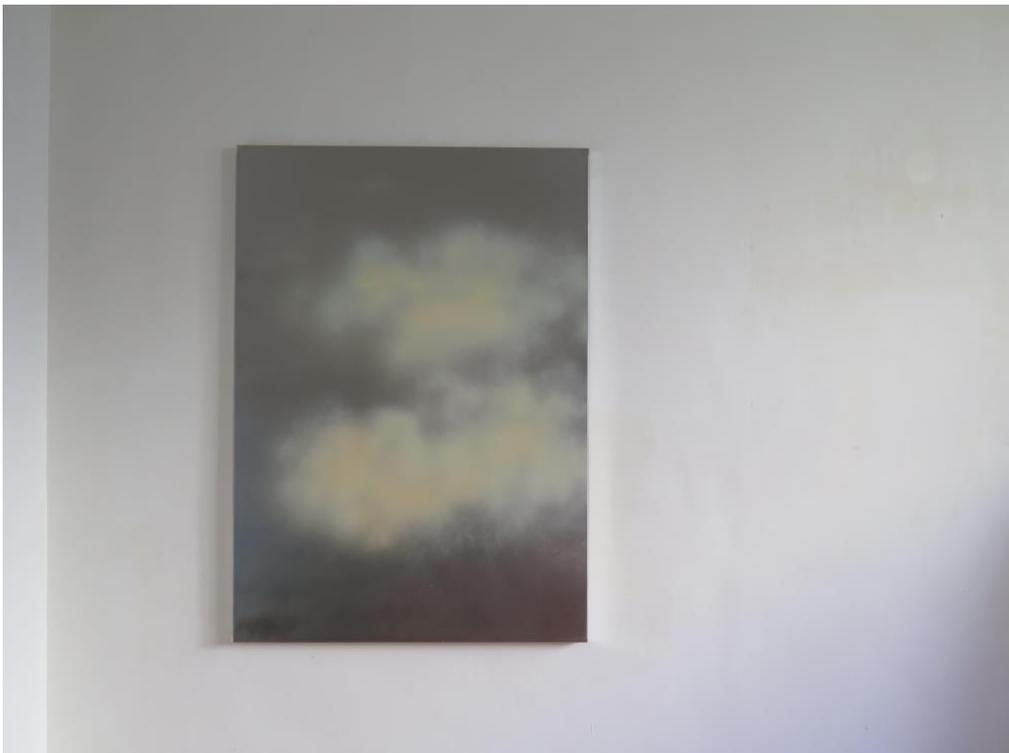
リー・キット 《Outsider skyscape 1》 2023, Spray paint on aluminum, 120 x 85cm

多大な犠牲を払っても守りたかった自由が失われた時、人はどのようにこの世界で息を続けることができるだろうか。制御できない怒りが心を支配した時、それを芸術表現へと昇華することができるのだろうか。私たちはいかにして芸術の問題について語り続けることができるのだろうか。

今キットは生きるために、そして記憶を忘却しないために壁を建てる必要がある。それは彼自身を保護するものであり、その表面を示唆するものでもある。アーティストは美しい表面を作り出す。それはその裏にある何かを予感させるけれど、それ以上でも以下でもない。

実践的であったキットの芸術はかくして、絵画の形式へと回帰した。

シュウゴアーツ 2023年10月



リー・キット 《Outsider skyscape 3》2023, Spray paint on stainless steel, 120 x 85cm

リー・キット「息をのむような虚ろな視線」

会期：2023年11月18日(土) - 12月23日(土)

会場：シュウゴアーツ

開廊時間：火～土曜 11:00 - 18:00 (日月祝休廊)

担当：石井美奈子

オープニングレセプション

日時：11月18日(土) 17:00 - 19:00

森美術館 アーгент・トーク 047：リー・キット

日時：2023年11月21日(火) 19:00 - 20:30 (受付：18:45)

会場：森美術館オーディトリウム

料金：無料

定員：70名(要予約、先着順)

お申し込み：森美術館ウェブサイト <https://www.mori.art.museum/jp/learning/6943/index.html>

主催：森美術館

協力：ShugoArts

リー・キット

1978年香港生まれ。台北を拠点に欧米アジア各地で滞在制作を行い活躍。プロジェクターによる光、映像、音、言葉やファウンド・オブジェなどのメディアを素材として用いながら制作される作品からは、常に絵画表現を先鋭的に拡張していこうとする意思が読み取れる。世界情勢に揺れ動いてきた都市、香港を出自にするリーは、同時代の社会や政治状況に問題意識を持って向き合っている。様々な土地の空気や感情を反映させたサイトスペシフィックな展示空間は、繊細な表現を通して観客に社会や他者との関係性を想起させる。

主な個展に「Lovers on the Beach」West Den Haag (デン・ハーグ、2021-2022)、「(Screenshot)」シュウゴアーツ (東京、2020)、「Resonance of a sad smile」Art Sonje Center (ソウル、2019)、「僕らはもっと繊細だった。」原美術館 (東京、2018)、「The Enormous Space」OCAT Shenzhen (深圳、2018)、「Not untitled」シュウゴアーツ (東京、2017)、「A small sound in your head」S.M.A.K (アントワープ、2016)、「Hold your breath, dance slowly」ウォーカーアートセンター (ミネアポリス、2016)、「The voice behind me」資生堂ギャラリー (東京、2015)、ヴェネチアビエンナーレ香港代表 (ヴェニス、2013) など。

シュウゴアーツ 106-0032 東京都港区六本木6丁目5番24号 complex665 2F / 03-6447-2234

担当：石井 minako@shugoarts.com プレスに関するお問い合わせ：石井・藤田 gallery@shugoarts.com

◆シュウゴアーツ アーティスト情報はこちらをご覧ください：<https://shugoarts.com/topics/>